

令和7年度第1回碧南市障害者差別解消支援地域協議会 会議録

1 日時

令和7年6月20日（金）午前11時35分から午後0時10分まで

2 場所

へきなん福祉センターあいくるデイルーム

3 出席者

(1) 出席委員 11名

碧南市社会福祉協議会 中川 英治（会長）

碧南市手をつなぐ育成会 三浦 志朗（副会長）

日本福祉大学教授 青木 聖久

碧南市民生委員児童委員協議会 榊原 和弘

NPO法人ハートフルあおみ（あおみJセンター所長） 水野 啓章

刈谷公共職業安定所碧南出張所 辻 辰憲

愛知県衣浦東部保健所 新美 萌子

西三河南部西障害者就業・生活支援センターくるくる 川村 顕治

刈谷病院 水野 美香

WHJ相談支援センターメビア 浅野 将克

ARTIST JAPAN 森脇 友理

(2) 事務局職員

福祉部長 伊藤 正博

福祉課長 磯貝 浩

福祉課社会福祉係長 山本 昌弘

福祉課社会福祉係主事 畠山 和也

福祉課社会福祉係主事 矢野 友也

4 傍聴者

0人

5 議題

(1) 令和6年度の取組について

(2) 令和7年度の取組について

(3) 県内の相談状況について

6 議事の要旨

(1) あいさつ（中川会長）

(2) 議題

ア 令和6年度取組について

事務局より会議資料に基づき議題（1）を説明。

イ 令和7年度取組について

事務局より会議資料に基づき議題（2）を説明。

ウ 県内の相談状況について

事務局より会議資料に基づき議題（3）を説明し、全ての議題について審議した。

<主な意見・質疑>

A委員：こどもへの合理的配慮について、合理的配慮を行う上での環境整備が大切であると考えている。おかしいとこどもが思ったときに誰に相談できるのかをわかるように伝えている。

B委員：来年度はアジア大会がある。碧南市の公共施設において、障害者トイレの看板表記を再度確認してほしい。また、店舗のセルフレジ化が進んでいくと、障害のある人がレジを使えないことも懸念している。

事務局：公共施設については、関係課と情報共有していきたい。

C委員：セルフレジ化が進んでく様子を見ていて、社会が冷たくなっているように感じる。碧南市は冷たい街だと思われたくないため、暖かい配慮ある街を目指したいと思う。

7 まとめ（日本福祉大学 青木聖久 教授）

4点述べたいと思う。

①障害について改めて。社会的障壁を取り除くための合理的配慮をどのようにとらえていくのが重要である。

②常態化。障害が常態化し、困ったことに慣れてしまう。件数がないから存在していないのではなく、慢性化し、当たり前となると声をあげなくなるということは知っておくべきであろう。

③知る機会の大切さ。価値観として知らないものは状態がわからない。しかし、知ることを通して新たな価値観に気づくことがある。

④合理的調整。合理的配慮という言葉の翻訳は、本来は合理的調整という言葉が正しいのではないか。一般企業も合理的配慮が義務となっている。双方の合理的調整によって、歩み寄ることが必要である。

以上